

令和元年度分

泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

PDCA サイクル 進捗管理シート

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	①地域資源を活かした産業振興と創業支援
事業名	中小企業総合支援事業
事業概要	【最終予算額：22,716千円】 【決算額：5,257千円】 専門的知識を保有する機関で経営相談を受け、中小企業者のニーズや経営状況により個別に判断し、中小企業者に最も適した支援策を提案する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：創業支援件数							
		KPI：5年間で130社/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	70社	90社	74社	87社	87社	
		達成率	—	53.8%	69.2%	56.9%	66.9%	66.9%	
		②目標事項：創業した件数							
		KPI：5年間で30社/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	20社	43社	35社	38社	38社	
		達成率	—	66.7%	143.3%	116.7%	126.7%	126.7%	
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値	—								
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】 担当課評価 B 創業支援については、平成27年5月に策定した創業支援事業計画に基づき、商工会議所・日本政策金融公庫・地域金融機関と連携し実施。また、令和元年度には大阪府宅地建物取引業協会の創業セミナーの追加及び計画期間の延長をし、国の認定を受けた。 融資創業相談以外は、市と商工会議所での創業相談窓口として対応している。
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 創業・起業に関する情報発信等の周知を強化し、創業希望者を対象とした起業セミナーや補助事業を実施していく。
	委員会意見	【評価等に対する意見】 委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	農林水産課
----------	-----	-------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	農業等の振興
具体的施策	①地域資源を活かした産業振興と創業支援
事業名	泉佐野産（もん）普及促進事業
事業概要	【最終予算額：12,837千円】 【決算額：9,154千円】 泉佐野で収穫された地場野菜や魚介類を活用したオリジナルレシピを基に、6次産業化に資するレシピを商品化し、地場製品のブランド化と6次産業化の促進を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：新たに雇用を創出する農工商連携または6次産業化を行う企業・団体数						
		KPI：5年間で3社						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	1社	1社	1社	1社	1社	累計
		達成率	—	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】 担当課評価 C 令和元年度は、市内の特産品である松波キャベツとマッチする食材でメニューを提供していただく取組をホテル日航関西空港で実施した。また、農家有志の取り組みである「きたなかマルシェ」の協力の下、関西空港内で「出張マルシェ」を開催し、泉佐野産野菜のPR、販売を行った。これらの取組は新聞や雑誌などのメディアに取り上げられ、泉佐野産野菜の価値向上につながった。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 令和2年度は引き続き、市内のホテル等の協力を得たうえで、泉佐野産食材を使ったメニューの提供をしていくことで、泉佐野産食材の更なるブランド化、6次産業化を目指す。今年度はすでに2社が6次産業化に取り組んでいる。
	委員会意見	【評価等に対する意見】 委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	①地域資源を活かした産業振興と創業支援
事業名	就労支援カレッジ事業
事業概要	【最終予算額：44,482千円】 【決算額：44,482千円】 相談等から個々の状態や能力に応じた教育訓練カリキュラムを作成し、その職場実習活動等により社会参加や就労体験を通して、一般就労への移行の支援を行う。就労経験の少ない若年者等への就労支援を行なうことによる労働力の底上げと、農業従事者の担い手不足の解消、農業の6次産業化の促進、さらには都市部から泉佐野市、泉佐野市から地方への地域間移動・移住を促進することを目的としている事業。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】
		担当課評価 A 交付金先駆的事例事業として内閣府等に注目されている事業である。農業を核に、雇用創出及び地方移住促進施策として連携して事業を実施してきた弘前市・加賀市の他、北海道小清水町等とも連携し、地方移住促進事業としての意味合いを深めた。また、事業の生産物をECにて販売することで、事業の自立化及び就労希望者へECサイト運営能力の付与を図った。 これらの取組みの結果、当該年度において15人の就労人材を育成できた。
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 引き続き推進交付金の活用により当該事業を実施する。弘前市及び加賀市と連携した事業を実施するとともに、雇用創出・地方移住促進の他、事業の自立化（ビジネススペースとして成立するよう）に向けた取組みを加速する。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
基本目標	①安定した雇用を創出する	
基本的方向	しごとの創生	
具体的施策	①地域資源を活かした産業振興と創業支援	
事業名	地域経済活性化プラットフォーム事業	
事業概要	【最終予算額：23,057千円】	
	【決算額：6,279千円】 インバウンドや空き店舗対策の一環で、中心市街地での起業を目指す方への補助及び起業に関するセミナーを実施することで、地域経済活性化の促進を目的とする。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：創業者数								
		KPI：4年後に20件								
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考	
		数値		—	4	8	18	21		累計
		達成率	—	—	20.0%	40.0%	90.0%	105.0%		
		②目標事項：海外等販路拡大事業者数								
		KPI：4年後に30社								
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考	
		数値		—	15	19	21	—		累計
		達成率	—	—	50.0%	63.3%	70.0%	—		
		③目標事項：販路拡大（経済波及効果）								
		KPI：4年後に3億円								
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考			
数値		—	1,929万円	3,502万円	7,657万円	22,389万円		累計		
達成率	—	—	6.4%	11.7%	25.5%	74.6%				
④目標事項：雇用機会創出数（トライアル雇用数）										
KPI：4年後に50人										
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考			
数値		—	3	—	—	—		累計		
達成率	—	—	6.0%	—	—	—				
令和元年度	評価（C）	【元年度評価】								
		担当課評価	起業支援事業補助金について、平成28年11月から実施。補助対象は店舗改修費や備品購入費などの初期的経費としていたが、初期的経費支援の有無によって、起業のきっかけにあまり影響しないこと等から、平成29年8月から補助対象を店舗家賃に変更して実施。家賃補助にて徐々に事業者が体力をつけ、売上げを増加させることが継続的な起業支援に繋がるものと考えシフトした。 当該補助金に関する問い合わせや創業相談も増加傾向にあるものの、対象エリアである「駅周辺の店舗家賃が高い」、「駐車場がない」などの理由により店舗の賃貸契約（＝補助金申請）に至らなかった事例もあるため、引き続き検証して、要因の分析を実施する。							
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 チャレンジ起業支援事業補助金については、内容を精査し、引き続き継続予定。								
委員会意見	【評価等に対する意見】									
	委員会評価									

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性化課
----------	-----	---------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	①地域資源を活かした農業振興と創業支援
事業名	エリアマネジメント活動推進事業
事業概要	【最終予算額：87,657千円】 【決算額：66,029千円】
	中心市街地のエリアマネジメントに取り組むまちづくり企業が、行政と商店街等中心市街地のステークホルダーとの橋渡しをし、空き店舗等を活用した創業起業につなげる支援等に取り組むほか、子育てや介護等で家にいる女性等の社会進出の支援や、市内のマーケティングデータに基づく商店街等の消費喚起につなげる支援を実施。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：消費効果額							
		KPI：3年間で累計10億円							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						13.3億円	
		達成率	—					133.0%	
		②目標事項：新規開業店舗数							
		KPI：3年後に5店舗/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						3	
		達成率	—					60.0%	
		③目標事項：女性等の社会進出数							
		KPI：3年後にのべ50人/年							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値						0			
達成率	—					0.0%			

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 消費効果額については、昨年10月から開始された消費税増税に伴う国のキャッシュレス還元事業との相乗効果もあり、当初の予定より早い段階でKPIは達成できた。 開業した店舗数については、まちづくり企業等が主催した講演会やワークショップの効果もあり、順調な滑り出しとなった。 しかしながら、女性等の社会進出数については、テレワークセンターの設置やワークライフバランスのワークショップのみでは、特に女性の社会進出の支援にはつながりにくかった。

令和元年度	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】
		消費効果や開業店舗数は当初の予定どおり、又は予定以上の成果をあげているため、引き続き、前年度の取り組みを進めていく一方で、女性等の社会進出支援が前年度に効果がなかったことを踏まえ、子育て中の親や副業兼業に興味のある人材の発掘・育成していくため、自分のやりたいと思うことを楽しみながら、自分の使える時間で可能な範囲で働くことができる「小商い」をスクール化にし、女性人材の発掘育成に取り組んでいく。 また、中心市街地エリアの遊休不動産を活用したチャレンジショップを通じて、開業店舗数や消費効果額の目標達成につなげていく。

令和元年度	委員会意見	【評価等に対する意見】
		委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	政策推進課
----------	-----	-------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	②企業誘致
事業名	企業誘致奨励金事業
事業概要	【最終予算額：66,558千円】 【決算額：60,047千円】 市の発展と雇用の増大を図るなど、市民福祉の向上のため、市内に新たに事業所を建設・設置される方（企業）で、一定条件を満たす場合に奨励金を交付する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：企業誘致奨励金対象企業数							
		KPI：5年後に24社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	9社	7社	10社	11社	14社	15社	累計
		達成率	—	29.1%	41.7%	45.8%	58.3%	62.5%	
		②目標事項：上記企業の新規就業者数							
		KPI：5年後に1,513人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	513人	525人	525人	568人	612人	614人	累計
		達成率	—	34.7%	34.7%	37.5%	40.4%	40.6%	
		③目標事項：奨励金を活用した外資系企業の進出件数							
		KPI：5年後に3社							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値	1社	1社	1社	1社	1社	1社	累計		
達成率	—	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%			

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 C 平成30年度から1社のみ増加となり、目標の約半数程度にとどまる。進出を希望する事業者はあるものの、希望する地域に用地が不足している。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 新たな産業集積用地の開発を検討。
委員会意見	委員会評価	【評価等に対する意見】

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性化課
----------	-----	---------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	③地域産業の競争力強化
事業名	中小企業総合支援事業（再掲）
事業概要	【最終予算額：22,716千円】 【決算額：5,257千円】 専門的知識を保有する機関で経営相談を受け、中小企業者のニーズや経営状況により個別に判断し、中小企業者に最も適した支援策を提案する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：支援企業数							
		KPI：5年後に160社							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	71社	50社	73社	60社	74社	72社	
		達成率	—	31.2%	45.6%	37.5%	46.3%	45.0%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 C
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 支援が必要な事業者に広く周知がされていない現状があるため、関係機関との連携の元、制度の周知を図る。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	しごとの創生
具体的施策	④女性に対する就職相談等
事業名	地域就労支援事業
事業概要	【最終予算額：1,235千円】 【決算額：252千円】 働く意欲がありながら雇用や就労を実現できない就職困難者等に対し、地域就労支援事業の活用、相談、資格取得講座への誘導等を行い、一人でも多くの就労の実現に向けて支援をする。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性への支援件数							
		KPI：5年間で200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	110人	236人	333人	466人	551人	累計
		達成率	—	55.0%	118.0%	166.5%	233.0%	275.5%	
		②目標事項：上記のうち、就業者数（起業者を含む）							
		KPI：5年後に60人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	4人	7人	25人	38人	46人	累計
		達成率	—	6.0%	11.7%	41.7%	63.3%	76.7%	
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】
		担当課評価 B 市内3か所にある地域就労支援センターにおいて、就労相談を実施しているが、相談者数は、H30年度が167人（うち女性73人）、R元年度が88人（うち女性39人）と減少した。 目標事項の「女性への支援件数」については、女性の相談者数と各種セミナーの参加者数を含めている。
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 相談者の状況に応じた、きめ細やかな支援ができるメニューを提供していく。
令和元年度	委員会意見	【評価等に対する意見】
		委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	地域共生推進課
----------	-----	---------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	人材還流・人材育成
具体的施策	⑤高齢者の就労支援
事業名	シルバー人材センター育成事業
事業概要	【最終予算額：14,216千円】 【決算額：14,216千円】 高齢者の雇用の確保を促進するために、シルバー人材センターへの支援を行う。

計画(P) ↓ 実施(D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：会員数							
		KPI：5年後に1,190人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	944人	993人	873人	839人	808人	777人	
		達成率	—	83.4%	73.4%	70.5%	67.9%	65.3%	
		②目標事項：契約件数							
		KPI：5年後に2,570件/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	2,402件	2,435件	2,173件	2,007件	1,883件	1,916件	
		達成率	—	94.7%	84.6%	78.1%	73.3%	74.6%	
		③目標事項：就業率							
		KPI：100%							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値		—	—	—	97.3%	99.0%			
達成率	—	—	—	—	97.3%	99.0%			

令和元年度	評価(C)	担当課評価	近年、全体的に会員数及び契約件数ともに伸び悩んでいるため、会員増強に向けた取り組みとして、パンフレット作成やポスティングなどを行っている。また、シルバーポイント制度を創設し、啓発活動参加によるポイント付与で会員増強に努めている。
		C	会員減少の理由としては、65歳までの継続雇用制度により、60歳から65歳までの新入会員減少していることなどが要因となっている。しかし、会員数に対する就業実人員である就業率は高い率で推移しており、一定の就業マッチングはできているものとする。
	改善(A)	【令和2年度における取り組みなど】 今後も会員増強のための、パンフレット配布活動や、登録会員による啓発活動（ボランティア清掃活動・各種イベントへの参加）に取り組むほか、技能講習会を開催し会員の確保につなげるものとする。	
	委員会意見	【評価等に対する意見】	
委員会評価			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
----------	-----	--------

基本目標	①安定した雇用を創出する
基本的方向	人材還流・人材育成
具体的施策	⑥人材育成・雇用機会の拡充
事業名	就労支援カレッジ事業（再掲）
事業概要	【最終予算額：44,482千円】 【決算額：44,482千円】 相談等から個々の状態や能力に応じた教育訓練カリキュラムを作成し、その職場実習活動等により社会参加や就労体験を通じて、一般就労への移行の支援を行う。就労経験の少ない若年者等への就労支援を行なうことによる労働力の底上げと、農業従事者の担い手不足の解消、農業の6次産業化の促進、さらには都市部から泉佐野市、泉佐野市から地方への地域間移動・移住を促進することを目的としている事業。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：相談者数							
		KPI：5年間で250人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	－	67人	211人	366人	528人	695人	累計
		達成率	－	26.8%	84.4%	146.4%	211.2%	278.0%	
		②目標事項：就労体験者数							
		KPI：5年間で150人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	－	38人	163人	277人	398人	530人	累計
		達成率	－	25.3%	108.7%	184.7%	265.3%	353.3%	
		③目標事項：一般就労者数							
		KPI：5年後に25人							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値	－	3人	13人	29人	44人	59人	累計		
達成率	－	12.0%	52.0%	116.0%	176.0%	236.0%			

令和元年度	評価（C）	担当課評価	交付金先駆的事例事業として内閣府等に注目されている事業である。農業を核に、雇用創出及び地方移住促進施策として連携して事業を実施してきた弘前市・加賀市の他、北海道小清水町等とも連携し、地方移住促進事業としての意味合いを深めた。また、事業の生産物をECにて販売することで、事業の自立化及び就労希望者へECサイト運営能力の付与を図った。 これらの取組みの結果、当該年度において15人の就労人材を育成できた。
		A	
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 引き続き推進交付金の活用により当該事業を実施する。弘前市及び加賀市と連携した事業を実施するとともに、雇用創出・地方移住促進の他、事業の自立化（ビジネススペースとして成立するよう）に向けた取組みを加速する。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	都市計画課
----------	-----	-------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	定住促進の強化
具体的施策	①定住・移住の促進
事業名	住宅総合助成事業、空き家バンク制度
事業概要	【最終予算額： 73,500千円】 【決算額： 73,243千円】
	○住宅総合助成事業・・・本市で居住用の住宅を購入又は建設する方に対して、住宅の抵当権設定登記や所有権保存登記等に要した費用、及び引越費用を助成する。 ○空き家バンク制度・・・本市に定住を希望する方に対して、登録条件を満たした空き家の情報提供等をし、当該住宅を購入または賃貸する場合に、登記費用や引越を助成する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：住宅総合助成事業申請件数							
		KPI：5年間で2,285件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	104件	305件	542件	843件	1136件	累計
		達成率	—	4.6%	13.3%	23.7%	36.9%	49.7%	
		②目標事項：空き家バンク登録件数							
		KPI：5年間で295件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	28件	45件	65件	87件	103件	累計
		達成率	—	9.5%	15.3%	22.0%	29.5%	34.9%	
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	担当課評価	平成27年5月からはじまった住宅総合助成事業は、当初は周知不足等もあり、申請件数は伸び悩んでいたが、H27年度後半からは右肩上がりに増加してきた。R元年度実績は、前年度と同様の伸び数となっている。 空き家バンク制度については、TV等で紹介されたこともあり、徐々に周知されてきており、登録件数は20件前後で推移している。
		C	
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 住宅総合助成事業については、制度開始後5年間の実績及び効果を検証した結果、事業効果は確認できるものの、投資効果としては見直す必要があると考えられ、定住促進を進めて行く中で、新たな人同士の繋がりや地域コミュニティの維持形成が必要であるとの考えから、町会加入を条件に加え、助成金についても見直しを行う。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	人権推進課
----------	-----	-------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	定住促進の強化
具体的施策	②移住を検討している女性や移住女性のための地域交流活動の促進
事業名	市民協働型事業（男女共同参画サポート事業）
事業概要	【最終予算額：1,825千円】 【決算額：1,683千円】 誰もが各々の個性と能力を發揮できる地域づくりをめざして、市民（グループ）・事業者・教育関係など様々な立場の人びととのパートナーシップにより相談及び市民啓発事業を実施する。男女共同参画社会に向けた、各種講座、グループ支援、相談業務等を実施する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：女性センター事業年間利用者数							
		KPI：5年後に3,235人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	3,078人	5,302人	6,448人	5,869人	6,552人	5,071人	
		達成率	—	163.9%	199.3%	181.4%	202.5%	156.8%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 A 令和元年度数値においては、イベントで実施したキャンペーン参加者を含めていないため、トータル利用人数は減少となっている。しかし、出前講座の依頼件数が大幅に増えたことや大規模の講演会を初めて実施したことなどにより実質の事業利用者は増加しており、世代を超えた利用者の交流促進につながっている。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 今後より一層、誰もが性差に関わりなくのびやかにいきいきと過ごせるようジェンダーの視点を重点的に発信させていく。そのひとつとして、男性参加を促す事業の企画を検討していく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分		担当課	まちの活性化課						
基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しい人の流れをつくる								
基本的方向	観光による交流人口の拡充								
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充								
事業名	観光振興事業（まち処運営事業ほか）								
事業概要	【最終予算額：107,296千円】 【決算額：92,905千円】								
	インバウンドを中心とした受入環境整備の充実や地域の伝統文化、イベントやキャラクタープロモーション支援、広域連携負担金拠出等、関西国際空港の玄関都市としての好立地を生かし、国内外の観光客の増加を促すことで、地域内の雇用創出等を含めた経済波及効果のさらなる向上を図る。								
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：インバウンド観光客数							
		KPI：5年後に300万人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	110万人	210万人	199万人	225万人	232万人	233万人	
		達成率	—	70.0%	66.3%	75.0%	77.3%	77.7%	
		②目標事項：外国人延べ宿泊者数							
		KPI：5年後に80万人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	67万人	102万人	92万人	98万人	113万人	124万人	
		達成率	—	127.5%	115.0%	122.5%	141.3%	155.0%	
		③目標事項：手ぶら観光利用者数							
		KPI：5年後に16,200人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	17,494人	25,789人	25,219人	21,158人	18,852人	
		達成率	—	107.9%	159.1%	155.7%	130.6%	116.4%	
		④目標事項：まち処利用者数（外国人利用者数）							
KPI：5年後に20万人/年									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値	86,697人	107,774人	122,863人	102,494人	95,956人	79,594人			
達成率	—	53.9%	61.4%	51.2%	48.0%	39.8%			
令和元年度	評価（C）	【元年度評価】							
		担当課評価	外国人延べ宿泊者数、および、まち処で実施した手ぶら観光利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたにもかかわらず、利用者数を増やしKPIを達成している。本市の観光資源である犬鳴山地区、並びに、令和元年度日本遺産認定された日根荘大木の農村景観へ多言語案内板(日本語、英語、中国語繁体字・簡体字)を8箇所整備し、観光客へのホスピタリティの向上を図り、地方誘客と消費拡大に取り組んだ。						
		B							
令和元年度	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】							
		平成28年度から施行している泉佐野市における滞在の促進及び受入環境の整備に関する条例(おもてなし条例)により、令和2年度までに5件のホテル誘致をめざし、さらなるインバウンド観光客数の増加を促すことで、地域内の雇用創出等を含めた経済波及効果の向上を図る。							
令和元年度	委員会意見	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	道路公園課
----------	-----	-------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	観光周遊バス運行事業
事業概要	【最終予算額： 2,809千円】 【決算額： 2,809千円】 地域の魅力向上、交流人口の増加、滞在時間の延長、地域経済の活性化を図る目的で、本市域内にある観光資源や商業施設を巡回するバスを運行する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】
		担当課評価 B 令和元年度の利用者総数は7,626人で、平成30年度実績の6,595人を1,031人(115.6%)上回った。令和元年度評価委員会で、外国人カスタマー割合についてのアンケート調査をすべきではとの意見があった。しかし、バス事業者と協議するも、定時・安全運行を最優先の公共交通では、人権や言語等に配慮しての実施は非常に困難であるとのことなので、実施には至っていない。外国人カスタマーの割合については各便総じて1割弱との回答であったため、令和元年度の外国人カスタマーの利用者数は760人前後と推定される。
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 利用者に安心して利用してもらえるように、新型コロナウイルス感染防止について感染防止対策を講じているが、感染拡大収束期以降も、運行业者等と協議し、引き続き、国や府の措置に準拠した適切な感染防止対策を講じていくとともに、コロナウイルスの影響下での利用者数の激減を緩和・回復できるよう、地域の魅力の再発見と広報方法を工夫し利用促進に努めたい。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる	
基本的方向	観光による交流人口拡充	
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充	
事業名	地方版MICE誘致推進事業	
事業概要	【最終予算額：－】 【決算額：－】	
	関西国際空港の玄関都市としての好立地を生かし、国際会議等のMICEを誘致・開催することで、地域内の雇用創出等を含めた経済波及効果を生み出し、ひいては都市の競争力・ブランド力向上を図る。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：地方版MICE誘致件数							
		KPI：5年間で2件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	－	0	0	0	0	3	累計
		達成率	－	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	150.0%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	－						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	－								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】	
		担当課 評価	りんくうエリアでのMICE関連施設の誘致やホテルの建設等、ハード面において民設民営による整備が着々と進む中、本市においてもDMO候補団体であるICP内にコンベンションビューロー組織を設立。商談会等にも積極的に参加し、3件の新規MICEを誘致でき、また、泉佐野市のMICE誘致プロモーションにも繋がった。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】	
		泉佐野市におけるMICE誘致戦略を策定し、セールスシートなどを活用した売込み等を積極的に仕掛けることで、大阪版DMO連携推進事業にて取組むMICE事業において、誘致を獲得できるよう取組む。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会 評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
----------	-----	--------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	大阪版DMO推進・連携事業
事業概要	<p>【最終予算額：79,939千円】 【決算額：73,831千円】</p> <p>大阪府・大阪市・東大阪市と地方創生推進交付金を活用した広域連携に取り組むことで、大阪観光局が観光地経営視点に立った観光地域づくりの舵取り役となり、関係機関等と協働しながら、明確なコンセプトに基づき、戦略策定やマーケティング、府内エリアのストーリー性を持たせ、地域版DMOを推進する東大阪市や本市と連携することで、府域全体により大きな効果を生み出していくもの。</p>

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：来阪外国人数							
		KPI：5年後に1,300万人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	716万人	—	(940万人)	(1,111万人)	1,142万人	1,231万人	
		達成率	—	—	(72.3%)	(85.5%)	87.8%	94.7%	
		②目標事項：外国人旅行消費額							
		KPI：5年後に1兆1,900億円/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	5,778億円	—	(8,632億円)	(9,598億円)	12,356億円	15,665億円	
		達成率	—	—	(72.5%)	(80.7%)	103.8%	131.6%	
		③目標事項：延べ宿泊者数							
		KPI：5年後に3,600万人/年							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値	3,037万人	—	(3,101万人)	(3,234万人)	3,990万人	4,850万人			
達成率	—	—	(86.1%)	(89.8%)	110.8%	134.7%			
令和元年度	評価（C）	担当課評価	広域連携参画2年目となる元年度は、大阪観光局との連携をより深め、アイスアリーナ・宿泊・飲食施設などのMICE関連施設の開発が進むりんくうタウンにおいて、MICEセミナーを大阪観光局と泉佐野JPAの共同主催で開催し、りんくうタウン地域におけるMICE誘致のポテンシャルの認知度向上につながった。また、観光案内所を拠点とした広域連携の推進や着地型観光の造成、インバウンドの受入れトータルコーディネートとして、一定の成果を上げることができた。						
		A							
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】							
		引き続き、りんくうタウンエリア等を中心に中小規模のMICE誘致に努めるとともに、MICE誘致において、重要なファクターとなるユニークメニューやアクティビティの広域連携を図り、主催者のニーズにワンストップで対応可能な組織を構築することにより、誘致件数と経済効果の向上をめざす。また、個別のMICE実施による経済波及効果を算出することで、MICE誘致の必要性の理解浸透を図る。まち処においては、利用者のニーズを把握するためのアンケートを実施し、分析結果をフィードバックすることにより、エビデンスに基づいた事業構築を図る。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和元年度分	担当課	まちの活性課
基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる	
基本的方向	観光による交流人口拡充	
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充	
事業名	KIX泉州ツーリズムビューロー事業	
事業概要	【最終予算額：10,986千円】 【決算額：10,986千円】	
	<p>本事業は、泉州観光プロモーション推進協議会、華やいて大阪・南泉州観光キャパシティ推進協議会、泉州国際マリン実行委員会の3団体が発展的解消をし、平成30年4月1日に新たに設立したDMO「一般社団法人KIX泉州ツーリズムビューロー」において、地方創生推進交付金を活用して実施するもの。</p> <p>「認知度向上」、「セカンド・デステイネーション」、「体験型観光」の3つのコンセプトのもとに、関西国際空港に近接する立地を活かしたインバウンド客に向けたプロモーションの実施や泉州サイクルルートを活用した地域資源のプロモーション及び近隣府県と連携したサイクリングイベント等を実施。観光客数及び地域内消費額の増加による地域経済の活性化を図る。</p>	

計画(P) ↓ 実施(D)	目標事項・進捗状況	①目標事項： 泉州地域の訪日旅行者数							
		KPI： 2年後に277万人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	159万人	—	—	—	197万人	392万人	
		達成率	—	—	—	—	71.1%	141.5%	
		②目標事項： 泉州地域の来訪者満足度（訪日旅行者）							
		KPI： 2年後に6ポイント							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	5.2ポイント	—	—	—	6.2		*未集計
		達成率	—	—	—	—	103.3%		
		③目標事項： 泉州地域の延べ宿泊者数（訪日旅行者）							
		KPI： 2年後に119万人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	68万人	—	—	—	137万人		*集計中
		達成率	—	—	—	—	115.1%		
		④目標事項： 泉州地域の旅行消費額（訪日旅行者）							
KPI： 2年後に888億円									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値	510億円	—	—	—	1,788億円	1,281億円			
達成率	—	—	—	—	201.4%	144.3%			
令和元年度	評価(C)	【元年度評価】							
		担当課評価	○3団体を統合したことで経費面でのスケールメリットが図れた。 ○3団体から引き継いだ事業を検証し、引き続きスクラップ&ビルドを図っていく必要がある。 ○3団体から引き継いだ事業について、業務効率や消費者目線を意識し、改善を図ることができた ○民間事業者をはじめとしたステークホルダー（利害関係者）との連携強化を引き続き図る必要がある。						
	改善(A)	【令和2年度における取り組みなど】							
		正式なDMOとして認定を受け、DMOとして期待される役割りを担うことができるよう、PDCAサイクルを回しながら、事業のスクラップ&ビルド引き続き行い、交流人口の拡大と、地域経済の活性化に貢献していく。特に、民間を中心とするステークホルダーとの連携を強化するため、泉州の広域観光について地域のステークホルダーと共に考え、地域が観光のメリットを享受できる未来を実現するための連携組織（観光地域づくり協議会*仮称）を立ち上げる。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
----------	-----	--------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	③インバウンド観光による交流人口の拡充
事業名	関空立国デスティネーション化推進事業
事業概要	<p>【最終予算額：98,045千円】 【決算額：49,399千円】</p> <p>関空の対岸という地理的優位性と交通利便性の強みを活かし、夜間の時間帯の消費喚起につなげるナイトタイムエコノミーの推進や新たな観光資源の創出等による観光客の目的地化を目指すとともに、地域間連携の強化による周辺地域への出発地あるいは中継地としての機能強化をはかる。</p>

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：外国人延べ宿泊者数							
		KPI：3年後に114万人							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		達成率	—					124万人	
		達成率	—					108.8%	
		②目標事項：（仮称）りんくう文化堂の利用者数							
		KPI：3年間で延べ1万人以上							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		達成率	—					—	
		達成率	—					—	
		③目標事項：ガストロノミーツーリズムの利用者数							
		KPI：3年間で延べ500人以上							
		数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		達成率	—					—	
		達成率	—					—	
		④目標事項：消費効果額							
KPI：3年間で累計15億円以上									
数値	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
達成率	—					1.0億円			
達成率	—					6.7%			

評価（C）	【元年度評価】
	<p>担当課評価</p> <p>C</p> <p>ナイトタイムエコノミー推進事業は、新型コロナウイルス感染症の関係で、泉佐野駅周辺のみでの開催となったが、夜間の消費拡大に繋がった。また、訪日外国人への多言語案内環境整備を図ったり、アジア圏の訪日外国人向けに影響力の高いインフルエンサーを招聘するなどし、情報収集及び現状分析の把握を行った。</p>

令和元年度 改善（A）	【2年度における取り組みなど】
	<p>WITHコロナ、AFTERコロナ期を意識した計画のもと、魅力的なコンテンツ造成を見据え、日本遺産との連携し、ナイトタイムエコノミー推進事業、及び、ガストロノミーツーリズムの開催を行い、消費の拡大に繋げる。また、アジア圏の訪日外国人向けに影響力の高いインフルエンサーからSNSを通じて情報発信及び拡散を行い、訪日外国人の集客を図り、消費拡大に繋げる。</p>

委員会意見	【評価等に対する意見】
	<p>委員会評価</p>

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	健康推進課
----------	-----	-------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	外国人にやさしいまちづくり
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	国際医療交流の拠点づくり事業
事業概要	【最終予算額： - 】 【決算額： - 】 がん医療や獣医療など地域の医療資源を活かし、海外との交流や医療機能の充実など、国際医療交流の拠点づくりに取り組む。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】
		担当課評価 B
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 大阪大学医療通訳養成コースの実習受け入れを今年度も引き続き継続する見込みである。医療通訳者の育成については大学や民間での養成コースも増えたため、当院の役割を医療通訳者の数を増やすことから通訳者の品質向上に切り替え、指導者レベルの医療通訳者だけを病院に残して養成コース修了者がより実践的な医療通訳の学びを有償で受けられるよう、50時間に及びマンツーマンの実地研修を令和元年度から新たに開始した。
	委員会意見	【評価等に対する意見】 委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
----------	-----	--------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	健康や医療目的の訪日観光促進事業
事業概要	【最終予算額：－】 【決算額：－】 医療や健康目的での観光客訪日促進に取り組む。関西国際空港の玄関都市として、国際医療交流の推進及び訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進を目的に、りんくうタウン及び泉佐野市域は国から特区認定を受けている。その一環として、国が行う通訳案内士とは別に、特区内限定で通訳案内ができる特区ガイドを育成し、地域内の雇用創出等を含む経済波及効果を生み出し、ひいては都市の競争力・ブランド力向上を図る。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：特区通訳案内士登録者数							
		KPI：5年後に100人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	25人	52人	65人	79人	95人	96人	累計
		達成率	－	52.0%	65.0%	79.0%	95.0%	96.0%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	－						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	－								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 B 平成23年12月に指定されたりんくうタウン地域の地域活性化総合特区について、5年後に通訳ガイド登録者数100人を目標とした。養成講座の修了者が平成30年度で129名となり、令和元年度は通訳ガイド養成講座を実施しなかった。令和元年度は既修了者の登録が1人で、合計登録者数が96人となり、5年後に100人というKPIはほぼ達成できた。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 泉佐野市では、より質の高い通訳案内ができるよう、地域通訳案内士養成研修を実施し、訪日外国人へのホスピタリティ向上を図るとともに、大阪府等と連携し総合特区の優位性を見出せるよう取り組みを実施していく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分		担当課	健康推進課						
基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる								
基本的方向	外国人にやさしいまちづくり								
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進								
事業名	国際医療サポートセンター事業								
事業概要	【最終予算額： ー】 【決算額： ー】								
	外国人が病院で診療を受ける場合に大きな課題となる医療通訳を多数養成し、域内外の医療機関との遠隔通訳ネットワーク化により、在住外国人はもとより、訪日外国人の医療サービスを充実し、訪日旅行の安全・安心をサポートする。								
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：医療通訳育成							
		KPI：5年後に200人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	75人	77人	80人	82人	41人	19人	
		達成率	ー	38.5%	40.0%	41.0%	20.5%	9.5%	
		②目標事項：遠隔医療通訳ネットワーク医療機関数							
		KPI：5年後に50機関							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	1機関	1機関	ー	ー	ー	ー	
		達成率	ー	2.0%	ー	ー	ー	ー	
		③目標事項：医療通訳実施研修修了者							
		KPI：20人/年							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値		21人	34人	33人	29人	31人			
達成率	ー	105.0%	170.0%	165.0%	145.0%	155.0%			
令和元年度	評価（C）	担当課評価	大阪大学主催の医療通訳養成コースの現地実習をりんくう総合医療センターが担うことで育成に向けた取り組みを引き続き行っている（令和元年度現地実習修了者31名）。遠隔医療通訳ネットワーク医療機関数については、もともとTV会議システムを各医療機関に設置し遠隔通訳を行う計画であったが、民間事業者で遠隔通訳の事業を始める会社が増加したため、当院で育成した医療通訳を大阪に拠点を置いてある会社に紹介を行い目標事項を変更した。この会社が複数の病院と契約して遠隔医療通訳を行っており、当院も契約している。					B	
		改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 大阪大学医療通訳養成コースの実習受け入れを今後も引き続き継続する見込みである。通訳件数に関しては、令和元年度の通訳件数は1,490件あり、引き続き高い件数を維持している。なお、急性期病院である本センターの時間外における外国人患者受け入れ体制整備のため、平成29年7月から民間事業者の遠隔医療通訳サービスを導入した。また、医療通訳育成については国際診療科の部長である南谷が2016年から新設された大阪大学社会人向け医療通訳養成コースにて毎年30名前後の医療通訳者を輩出し、現場研修をりんくう総合医療センターで行っている。医療通訳者の育成については大学や民間での養成コースも増えたため、当院の役割を医療通訳者の数を増やすことから通訳者の品質向上に切り替え、指導者レベルの医療通訳者だけを病院に残して養成コース修了者がより実践的な医療通訳の学びを有償で受けられるよう、50時間に及びマンツーマンの実地研修を令和元年から新たに開始した。①目標事項の医療通訳育成数は、平成30年度からは当院での医療通訳実績者数を記載している。						
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
----------	-----	--------

基本目標	②定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる
基本的方向	観光による交流人口拡充
具体的施策	④国際医療交流の拠点づくりの推進
事業名	ホスピタリティ・地域魅力の向上事業
事業概要	<p>【最終予算額：－】 【決算額：－】</p> <p>訪日外国人が空港に最初に触れ、最後に訪れる地域として、外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上を図り、外国人の訪日促進につなげる。りんくうタウン及び泉佐野市域は国から特区認定を受けており、その事業の一環として、国が行う通訳案内士とは別に、特区内限定で通訳案内ができる特区ガイドを育成することで、地域内の雇用創出等を含めた経済波及効果を生み出し、ひいては都市の競争力・ブランド力向上を図る。</p>

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：特区案内士登録者数							
		KPI：5年後に100人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	25人	52人	65人	79人	95人	96人	累計
		達成率	－	52.0%	65.0%	79.0%	95.0%	96.0%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	－						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	－								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】	
		担当課評価	平成23年12月に指定されたりんくうタウン地域の地域活性化総合特区について、5年後に通訳ガイド登録者数100人を目標とした。養成講座の修了者が平成30年度で129名となり、令和元年度は通訳ガイド養成講座を実施しなかった。令和元年度は既修了者の登録が1人で、合計登録者数が96人となり、5年後に100人というKPIはほぼ達成できた。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】	
		泉佐野市では、より質の高い通訳案内ができるよう、地域通訳案内士養成研修を実施し、訪日外国人へのホスピタリティ向上を図るとともに、大阪府等と連携し総合特区の優位性を見出せるよう取り組みを実施していく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分		担当課	まちの活性課						
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる								
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実								
具体的施策	①若い世代の経済的安定								
事業名	地域就労支援事業（再掲）								
事業概要	【最終予算額：1,235千円】 【決算額：252千円】								
	働く意欲がありながら雇用や就労を実現できない就職困難者等に対し、地域就労支援事業の活用、相談、資格取得講座への誘導等を行い、一人でも多くの就労の実現に向けて支援をする。								
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：若者（20～34歳）の就業率							
		KPI：5年後に77%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	67.0%	—	67.6%	67.6%	67.6%	67.6%	国勢調査 結果による
		達成率	—	—	87.7%	87.7%	87.7%	87.7%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								
令和元年度	評価（C）	担当課評価	市内3か所にある地域就労支援センターにおいて、就労相談を実施しているが、相談件数は毎年、ほぼ横ばい傾向。						
		C							
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 相談者の状況に応じた、きめ細やかな支援ができるメニューを提供していく。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	子育て支援課
----------	-----	--------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	①若い世代の経済的安定
事業名	泉佐野市結婚新生活支援事業
事業概要	【最終予算額： 3,007千円】 【決算額： 2,771千円】 経済的理由により結婚を躊躇している方に対し、新婚世帯の住居費及び引越費用を支援することにより、結婚に伴う経済的不安を軽減し、結婚の希望を叶えるとともに、少子化対策を推進する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：婚姻届出件数							
		KPI：450件/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値			439件	423件	431件	451件	
		達成率	—		97.5%	94.0%	95.8%	100.2%	
		②目標事項：結婚新生活支援事業補助金交付件数							
		KPI：補助金支給計画値：15件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値			2件	16件	13件	12件	
		達成率	—		13.3%	106.6%	86.7%	80.0%	
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】
		担当課評価 B
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 平成30年度から対象者の要件はほぼ変わりなく、結婚を考える人への周知はできているので、一定の申請数は見込めている。今年度においても継続して周知を図るため、不動産業者及び結婚式運営事業者等への広報や、婚姻届提出時にチラシとアンケートの配布を実施する。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	健康推進課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	
事業名	不妊治療費助成事業	
事業概要	【最終予算額：4,863千円】 【決算額：4,198千円】	
	不妊・不育治療を受けた夫婦の経済的な負担を軽減するために、検査や治療に要する費用の一部を助成する事業。夫婦合算の医療費の自己負担額の2分の1で、1カ年度5万円を上限とし、通算6年度まで助成する。	

計画(P) ↓ 実施(D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：不妊治療費助成対象出生件数						
		KPI：5年間で100件						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	3件	38件	79件	129件	179件	累計
		達成率	—	3.0%	38.0%	79.0%	129.0%	
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							

令和元年度	評価(C)	担当課評価	助成件数は、令和元年度106件、平成30年度97件、平成29年度104件、平成28年度108件と同程度を維持していると考えます。妊娠を希望し不妊治療に関わる夫婦の割合が全国的に増加する傾向から、費用の要する治療に対する助成であり、市民の負担軽減を図るために引き続き事業を継続していく。
		A	
	改善(A)	【令和2年度における取り組みなど】 これまで同様に関係医療機関からの対象者への周知等も含め、市民への事業周知に努める。また、本事業は平成27年度より実施し、令和2年度に助成条件の一つである通算助成回数6回を迎える年度となる。5年間の申請を助成回数別にみると、その件数は、1回のみ助成が208件、2回が101件、3回が27件、4回が5件、5回が1件と1～2回の助成が圧倒的に多い。これは、泉佐野市が助成している一般治療を1～2回終えても妊娠に至らなかったため府の助成対象である特定不妊治療へ移行したためと考えます。令和2年度で6年の区切りがつくこと、大阪府の不妊治療費助成が令和3年度から、変更されることになるため、令和3年度以降の助成内容を再検討する必要があります。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分		担当課	健康推進課						
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる								
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実								
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援								
事業名	母子保健事業								
事業概要	【最終予算額：119,453千円】 【決算額：105,625千円】								
	妊産婦・乳幼児の健康の保持増進を図るため、健康診査や保健指導を行う。また、安心して妊娠・出産・子育てができるように相談支援等を行う。								
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
	KPI：								
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考	
	数値								
	達成率	—							
	③目標事項：								
	KPI：								
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								
令和元年度	評価（C）	【元年度評価】							
		担当課 評価	H28年度から実施の「産後2週間サポート事業」を「産婦健診」として継続し、医療機関との連携にて産後早期介入支援につながっている。産後の心のケアなどにより、子育て支援・児童虐待予防などを充実に努めている。R元年度実績として、妊婦健診1,131人、乳児一般健診642人、乳児後期健診605人、4か月健診607人、1歳6か月健診714人、3歳6か月健診621人、2歳歯科健診610人、経過観察健診175人、精密検査検診0人、妊産婦等歯科健康診査321名。新生児聴覚検査586人、産婦健診は683人。H30年度より開始した産後ケアは実8人（デイサービス型3件、宿泊型が30件）。						
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 より細やかな切れ目のない支援をめざし、関係機関との連携とともに、より個々の実情に合ったフォローの実施に努める。子育て支援包括支援センターとの連携を密にし、早期の支援体制を整える。効果的な広報を模索し受診率の向上にやサービス提供に努める。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会 評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	健康推進課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	
事業名	乳児家庭全戸訪問事業	
事業概要	【最終予算額：2,617千円】	
	【決算額：1,848千円】 子どもの健やかな成長と保護者の子育てを支援するため、生後4か月までの乳児のいる家庭を助産師等が訪問し、育児に関する情報提供や乳児の家庭訪問などを行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								
令和元年度	評価（C）	担当課評価	【元年度評価】 継続して実施していく。訪問実績は、平成28年度対象者736人中698人、平成29年度対象者713人中686名、平成30年度は対象者729人中690人、令和元年度は対象者672人中643人の訪問となる。訪問できていないケースとしては、転出や長期里帰り、入院など。令和元年度に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、年度内に実施できなかったケースもある。他市町村依頼や日程調整などにより対応し、全戸訪問に努めた。拒否にて訪問ができなかった2ケースは来庁による面談実施となった。						
		B							
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 産婦健診及び産後ケアと連携し、内容の充実を図る。また、母子保健事業、子育て世代包括支援センターとの効果的な連携を図り、全戸訪問支援を目指し育児不安の解消など相談支援に努める。							
		【評価等に対する意見】							
委員会意見	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	子育て支援課
----------	-----	--------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
事業名	養育支援訪問事業
事業概要	【最終予算額：487千円】 【決算額：274千円】 養育支援が特に必要であると判断した家庭に対し、助産師又は専門的知識及び経験を有する子ども家庭サポーター協議会の会員が、その居宅を訪問し、養育に関する指導、助言等を行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 B 支援が必要な家庭に適切な支援を行うことにより、育児不安の解消、妊娠出産時の負担軽減等に繋がっており、また、児童虐待の未然防止が図られている。 (令和元年度実績) 対象家庭：7家庭、訪問回数52回 (平成30年度実績) 対象家庭：13家庭、訪問回数：79回 (平成29年度実績) 対象家庭：7家庭、訪問回数：54回 (平成28年度実績) 対象家庭：10家庭、訪問回数：56回 (平成27年度実績) 対象家庭：17家庭、訪問回数：93回
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 適切な相談に対する傾聴、助言及び指導ができるよう支援員のスキルアップ研修を年2回実施することで、養育支援訪問事業の充実を進める。
委員会意見	委員会評価	【評価等に対する意見】

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	人権推進課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	
事業名	総合相談事業	
事業概要	【最終予算額：23,015千円】	
	【決算額：22,639千円】 外国人やハイリスク妊婦、障害のある人等への医・食・住に関する生活情報の提供をはじめ、出張相談や時間外相談、通訳等の同行など、総合相談機能の充実を図り、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進める。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：総合相談件数							
		KPI：5年後に3,080件/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	2,735件	2,800件	3,178件	2,883件	2,976件	2,869件	
		達成率	—	90.9%	103.1%	93.6%	96.6%	93.1%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】
		担当課評価 B
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 相談の初期インテークが非常に重要であるので、今後も相談員のスキルアップを図る。地域共生推進課や他の相談機関とも連携を密にすることで、障害者差別解消法やマタニティ・ハラスメント等、増えつつある新たな課題に対しても、適切に迅速に対応していけるよう、相談事業連絡会議の充実や職員研修、民間支援機関との連携に注力していきたい。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	地域共生推進課
----------	-----	---------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
事業名	地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）
事業概要	【最終予算額：11,094千円】 【決算額：11,094千円】 地域において子育て世帯が孤立することなく、子育てに関する相談や親子の仲間づくりを目的とした子育てサロン活動（地区福祉委員会主催）の支援を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：子育てサロン実施箇所							
		KPI：5年後に15か所/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	15か所	15か所	15か所	16か所	16か所	11か所	
		達成率	—	100.0%	100.0%	106.7%	106.7%	73.3%	
		②目標事項：子育てサロン開催回数							
		KPI：5年後に340回/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	316回/年	315回/年	315回/年	324回/年	324回/年	308回/年	
		達成率	—	92.6%	92.6%	95.3%	95.3%	90.6%	
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

評価（C）	【元年度評価】
	担当課評価 B 子育てサロンは、平成29年度から開催箇所が1カ所増加した。サロンの開催により、子育て中の親子が参加し、地域のボランティアなどと一緒に交流活動を行うことで、子育て中の親子が地域で孤立してしまうことを防止することができた。また、様々な子育ての悩みなどを相談する場にもなり、思い悩んで子どもへの虐待に陥ってしまうことを防止することにもつながっている。特に近年では、若い子育て世帯の転入が多い地域もあり、そのような地域では、子育てサロンの開催効果は非常に大きい。なお、実施箇所、開催回数ともに昨年度同様のペースで開催していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、定期開催が中止となったところがあったため減少している。

令和元年度 改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 今後は、現状の実施箇所での次の担い手育成と併せて、他のことも関連施策との連携も図っていくことで、活動の幅をより充実させて行くことが求められる。また、本当に支援を必要とされる人がサロンへ参加できるよう、参加しやすい環境づくりの支援を行っていくことも必要である。このようなことも踏まえて、市としては、引き続き、事業の周知と参加促進及び運営支援を行っていく。
----------------	---

委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	子育て支援課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	こども医療費助成事業	
事業概要	【最終予算額：287,392千円】	
	【決算額：272,924千円】 中学3年生までの入通院に係る医療費の一部を助成する。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：助成対象者数（通院）							
		KPI：5年後に13,989人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	7,915人	9,019人	12,415人	12,068人	11,818人	11,568人	
		達成率	—	64.5%	88.7%	86.3%	84.5%	82.7%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】
		担当課評価 B
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 引き続き、対象者の医療費の負担軽減につながるよう、適切な周知案内に努める。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	子育て支援課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	ひとり親家庭医療費助成事業	
事業概要	【最終予算額：82,728千円】	
	【決算額：69,858千円】 ひとり親家庭における18歳の年度末までの児童及びその児童を養育する親の入通院に係る医療費を助成する。	

計画(P) ↓ 実施(D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							

令和元年度	評価(C)	【元年度評価】
		担当課評価 B ひとり親家庭の医療費の一部を助成することにより、受診を容易にし、ひとり親家庭の健康保持や生活の安定が図られた。 (実績) H28 助成件数 30,461件 H29 助成件数 29,011件 H30 助成件数 29,273件 R元 助成件数 27,929件
	改善(A)	【令和2年度における取り組みなど】 引き続き、対象者の医療費の負担軽減につながるよう、適切な周知案内に努める。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	子育て支援課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	幼児教育・幼児保育	
事業概要	【最終予算額：2,798,688千円】 【決算額：2,699,205千円】 教育または保育を必要とする児童に対し、質の高い教育・保育を行い、待機児童数ゼロを堅持する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
	担当課評価	所得状況に応じた保護者の経済的負担の軽減と、公・私立幼稚園間の保護者負担の格差是正を目的に、幼稚園の入園料及び保育料を軽減している。 また、保育に欠ける保護者からの申し込みにより、入所判定会議を経て入所児童を決定し、保育料の徴収を行い、保育を実施する。 (令和元年度実績) 待機児童数 0件 (平成30年度実績) 待機児童数 0件
	B	
改善（A）		【令和2年度における取り組みなど】 引き続き、待機児童数ゼロを堅持する。
委員会意見		【評価等に対する意見】
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	子育て支援課
----------	-----	--------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	地域における子育て支援サービス
事業概要	【最終予算額：13,043千円】 【決算額：12,273千円】 地域子育て支援拠点事業（地域子育て支援センター）やファミリーサポートセンター事業など、在宅で保育を行う家庭を含むすべての子育て家庭に対して、利用者のニーズを踏まえながら必要な支援を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】	地域住民と子育て家庭の交流・連携を図る講座や催し等を実施し、地域における子育て支援を推進する。平成31年1月29日～地域子育て拠点を1ヶ所追加開所し、更なる支援が可能となった。 （令和元年度実績） 地域子育て拠点事業 つくしんぼ 利用者：5,257組 相談数：260件 わたぼうし 利用者：2,976組 ファミサポ分 講座件数：19件 参加者数：79人（おとな） 39人（子ども） （平成30年度実績） 地域子育て拠点事業 つくしんぼ 利用者：5,969組 相談数：122件 わたぼうし 利用者：716組 ファミサポ分 講座件数：40件 参加者数：166人（おとな） 141人（子ども）
		B	
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 引き続き、利用者のニーズを踏まえながら必要な支援を行う。	
	委員会意見	【評価等に対する意見】	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実	
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実	
事業名	放課後児童対策事業	
事業概要	【最終予算額：155,930千円】	
	【決算額：155,621千円】 保護者が就労等により昼間家庭にいない市内13小学校に就学している児童に、遊びや生活の場を提供している。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—						
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 B 保護者就労等で昼間家庭にいない小学校に就学している児童（5月1日基準日時点登録児童数：1,152人【昨年度比-5人】）に対し、市内13小学校すべての小学校で遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図ることができた。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 共働き家庭やひとり親家庭の増加など、子どもを取り巻く環境の変化から、放課後における児童の安全な居場所づくり、そして高まる子どもたちの安全な居場所の確保及び留守家庭児童会の施設増改築等による整備を進めていく。
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	教育総務課
----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	安心安全な小学校給食事業（アレルギー対応食提供）
事業概要	【最終予算額：336千円】
	【決算額： 12千円】 従来の食物アレルギー対応（乳・卵）に加え、副食に乳または卵が含まれる場合に主食を食べ易くすることを目的として、副食（佃煮類やジャム等）を提供する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： アレルギー対応率							
		KPI： 5年後に100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	72.7%	67.8%	91.2%	90.4%	95.5%	93.6%	
		達成率	—	67.8%	91.2%	90.4%	95.5%	93.6%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 B
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 副食に乳・卵を含む献立をできるだけ控える等の工夫を図る。また、補食の種類や代替品を検討。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	教育総務課
----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	安心安全な中学校給食事業（アレルギー対応食提供）
事業概要	【最終予算額：77千円】
	【決算額：8千円】 従来の食物アレルギー対応（乳・卵）に加え、副食に乳または卵が含まれる場合に主食を食べ易くすることを目的として、副食（佃煮類やジャム等）を提供する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項： アレルギー対応率							
		KPI： 5年後に100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値		43.5%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	
		達成率	—	43.5%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%	
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（B）	【元年度評価】
		担当課評価 B 中学校給食では小学校給食に比べると少数ではあるが、乳・卵の食物アレルギーを持つ生徒が存在するため、副食に乳・卵を含む献立を控えている傾向にあります。令和元年度の補食に関する利用実績や学校現場の意見を集約し、事業の分析を行いたいと考えます。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 令和元年度と同様に補食の種類も模索しながら改善を図りたいと考えます。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	健康推進課
----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	地域医療の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	泉州広域母子医療センターの充実
事業概要	<p>【最終予算額：29,844千円】 【決算額：29,844千円】</p> <p>平成20年4月より、りんくう総合医療センター産婦人科と市立貝塚病院の産婦人科をひとつの組織として統合し、りんくう総合医療センターは「周産期センター」、市立貝塚病院は「婦人科医療センター」として、泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として運用している。</p>

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	担当課評価	24時間365日、2人の産科医と1人の新生児専門の小児科医の常駐により、ハイリスク妊婦等についても安心安全なお産ができる体制を整えることで、泉州地域における周産期医療機能の確保を図ることができた。平成30年度の分娩実績は835件であった。そのうち204件は帝王切開である。また442件はハイリスク分娩（早産・高齢出産・多胎出産・妊娠糖尿病などの合併症で危険性が高い分娩）に位置づけられる。
		B	
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】	
		NICU（新生児集中治療室）等を適切に運用することにより、ハイリスク出産、合併症妊婦、疾病新生児、早期産児等を積極的に受け入れる。さらに、救命救急センターとの連携強化や地域医療機関と役割分担をしたうえで普通分娩も積極的に受け入れ、安定した運営に努める。また、泉州こだわりタオルを素材としたオリジナルおくるみタオルを出産のお祝い品としてプレゼントするとともに、妊産婦食事を改善するなど、利用者の満足度向上を図る。各種の市民講座を開催し、広く地域住民に周産期医療の現状などを知ってもらう機会をつくる。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	健康推進課
----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	地域医療の充実
具体的施策	③安心・安全な出産・子育て支援の充実
事業名	泉州南部初期急病センターの充実
事業概要	【最終予算額：70,557千円】
	【決算額：69,556千円】 泉州南部地域における休日等の一次救急医療供給体制を確保する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							

令和元年度	評価（C）	担当課評価	平成26年度に移転後、駐車台数の大幅増など通院環境が整備されたことも影響し受診者数は、安定してきている。インフルエンザ流行期には、診療時間内に診察を終えることが困難な診療日が多くなるも、関係団体等の協力を得て、臨時的に体制を強化するなどし体制を確保できた。また、平成28年度より木曜日診療を開始し、関係機関の協力により市民への一次救急医療供給体制を確保できた。受診者数は、前年度（平成30年度）は7,442人であり、令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により3月の患者数が例年の半数程度ではあったが、7,617人と受診者数は増加している。新型コロナウイルス感染症受診病院ではないが、濃厚接触者が発熱で来所することもあり、防護服等を準備して医療体制を確保した。
		B	

令和元年度	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】
		泉州地域は、平日夜間の一次救急医療供給体制が未整備である。泉州南部初期急病センターにおいては、従事スタッフの確保が困難なことが主な要因であり、長年の懸案事項であったが、調整の結果、関係団体の協力により、ようやく平成28年度途中から平日の木曜日の診療を開始することとなった。診察開始から4年目になるが木曜日の受診者数は少ない状態が続いている。木曜日の診療を継続しつつ医師配置の調整に努める。

令和元年度	委員会意見	【評価等に対する意見】
		委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	ICT活用教育推進事業	
事業概要	【最終予算額：2,758千円】 【決算額：2,548千円】	
	市内小中学校にPCやタブレット等の環境整備を行うとともに、教職員がICT機器の特性を理解し、授業において効果的に活用できる環境をつくることにより、よくわかる授業づくりと学力の定着・向上をめざす。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：タブレットの基本操作の習得率							
		KPI：100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	95.0%	95.0%	95.0%	—	—	
		達成率	—	95.0%	95.0%	95.0%	—	—	
		②目標事項：プログラミング研修の参加率							
		KPI：100%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	—	—	—	91.7%	94.4%	
		達成率	—	—	—	—	91.7%	94.4%	
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

評価 (C)	【元年度評価】	
	担当課 評価	教職員がICT機器を積極的かつ効率的に活用できるよう、各校の情報教育担当および参加希望者に対して研修を実施した。また、大阪産業大学の山田啓次准教授を研修講師に招き、令和2年度より小学校で本格実施となるプログラミング教育に対する理解を深め、今後の各校のとりくみにつなげている。 授業においてより効果的にICT機器を活用する環境を整えるため、他課とも連携しながら、国の「GIGAスクール構想」への対応を早急に進め、ネットワークの環境整備、端末の選定および配備を進めている。
令和元年度 改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】	
	小学校においてプログラミング教育が実施となることから、各校におけるとりくみを集約し、情報共有する機会をつくり、市域全体に広めていく。また、「GIGAスクール構想」の実現に向けて、泉佐野市の情報教育計画を策定し、研修による教職員のICT活用能力の向上、ICT機器活用による授業改善を図り、学力の定着・向上をめざしていく。また、成果指標を設定し、達成状況を「見える化」していく。	

委員会意見	委員会 評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	学校教育課
----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	学校教育の充実
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進
事業名	泉佐野まなびんぐサポート事業①
事業概要	【最終予算額：15,046千円】 【決算額：12,882千円】 子どもの学びの状況等に応じたきめ細かな指導や支援を行うことにより、子ども一人ひとりの学力・体力向上を図るため各学校の取組みに対し人的支援を行う。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：学習意欲の改善							
		KPI：100%【全国学テ学校質問紙：「対象学年の児童生徒は熱意を持って勉強しているか」肯定的回答の小中平均】							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	80%	96.2%	92.3%	88%	66.6%	96.2%	
		達成率	—	96.2%	92.3%	88%	66.6%	96.2%	
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】	
		担当課評価	KPI①【全国学テ学校質問紙：「対象学年の児童生徒は熱意を持って勉強しているか」肯定的回答の小中平均】 小学校：できている15.4%+ほぼできている76.9%=92.3% ① 中学校：できている40.0%+ほぼできている60.0%=100% ② (①+②)÷2=96.2
		B 退職教員や学生ボランティア等の地域人材を活用して、学校が主体的に取り組む放課後学習やクラブ活動を支援した。 学習：登録者40名、配置人数のべ74名・実人数40名、実施回数 小学校441回・中学校138回 クラブ：登録者5名、配置人数4名、実施回数368回	
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 各校の実態によって参加対象となる児童生徒の学年や人数は様々ではあるが、放課後学習自体は市域全体で定着している。より効果的な取組とするために、学校のねらいを明確にした計画表の作成についての指導、指導主事による各校視察等を継続して行い、各校の実態やニーズに応じ、より効果的な事業実施となるよう市教委と学校で連携して充実を図っていく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	泉佐野まなびんぐサポート事業②	
事業概要	【最終予算額：15,046千円】	
	【決算額：12,882千円】 子どもの学びの状況等に応じたきめ細かな指導や支援を行うことにより、子ども一人ひとりの学力・体力向上を図るため各学校の取組みに対し人的支援を行う。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善。							
		KPI：「運動が嫌い」5年後に小5：9.1%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	11.7%	11.8%	14.4%	4.8%	3.9%	5.3%	
		達成率	—	77.1%	63.1%	189.6%	233.3%	171.7%	
		②目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善。							
		KPI：「運動が苦手」5年後に小5：21.2%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	23.7%	21.9%	-	-	-	-	
		達成率	—	96.8%	-	-	-	-	
		③目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善。							
		KPI：「自分の体力に自信がない」5年後に小5：11.9%							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値			13.2%	17.1%	13.9%	-	元年度項目なし		
達成率	—		90.1%	69.5%	85.6%	-			

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】	令和元年度においても、体力向上プログラム推進校の在籍児童を日本体育大学に派遣し、スポーツ交流を実施したほか、各学校における児童の体力向上をめざす取組みに対して、大阪体育大学との協定に基づき教員や学生を派遣した。 また、令和元年度からは体力向上加配教員を中心に、教職員への実技指導を行い、各校における体力向上を図っている。
		担当課評価	
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】	
		令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の分析結果を活用し、児童の体力向上に向け、泉佐野市立小学校体力・運動能力向上加配教員を中心に取組みを普及することで、市内全小学校の児童の体力向上を図るとともに、生涯にわたって「運動を楽しむ」ことができる児童を育てたい。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	泉佐野まなびんぐサポート事業③	
事業概要	【最終予算額：15,046千円】	
	【決算額：12,882千円】 子どもの学びの状況等に應じたきめ細かな指導や支援を行うことにより、子ども一人ひとりの学力・体力向上を図るため各学校の取組みに対し人的支援を行う。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善。							
		KPI：「運動が嫌い」5年後に中2：15.0%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	18.7%	18.2%	17.4%	9.5%	6.5%	7.3%	
		達成率	—	82.4%	86.2%	157.8%	230.8%	205.5%	
		②目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善。							
		KPI：「運動が苦手」5年後に中2：34.2%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	35.2%	36.4%	-	-	-	-	
		達成率	—	93.9%	-	-	-	-	
		③目標事項：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」項目の改善。							
		KPI：「自分の体力に自信がない」5年後に中2：21.1%							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値			23.4%	24.6%	24.3%	-	元年度項目なし		
達成率	—		90.1%	85.7%	86.8%	-			

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】	各学校における生徒の体力向上をめざす取組みに対して、大阪体育大学との協定に基づき教員や学生を派遣した。意識調査では目標を達成している状況ではあるが、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技の結果は、全国及び府を下回る結果となっており、引き続き指導方法の改善が必要である。
		担当課評価	
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 令和2年度についても外部人材を有効に活用し、生徒の体力向上に向けて支援を行う予定である。また、教職員の指導方法の工夫・改善を促し、生徒の運動に対する意欲を高めるとともに、実技調査についても結果が伴うよう適切な指導・助言を行う。	
		委員会意見	【評価等に対する意見】
委員会評価			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	④児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進	
事業名	泉佐野市の未来を創る教育事業	
事業概要	【最終予算額：15,388千円】 【決算額：14,501千円】	
	全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、重点支援小学校への支援策として「学力向上アドバイザー」を配置するなど、市域全体の学力向上を図る。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：全国学力・学習状況調査（小学校 算数） 平均正答率の差							
		KPI：5年後に全国平均（全国平均正答率との差が0）							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値		-3.3	-1.9	-2.5	-2.5	-1.6	
		達成率	-	-	-	-	-	-	
		②目標事項：全国学力・学習状況調査（小学校 国語） 平均正答率の差							
		KPI：5年後に全国平均（全国平均正答率との差が0）							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値		-1.3	-2.4	-1.0	-3.9	-4.8	
		達成率	-	-	-	-	-	-	
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	-								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】
		担当課 評価 退職教員の人材（校長）を活用して、市全体の学力向上と各校の研究を推進するための児童生徒の学力向上、教職員の指導力等の向上のための研究授業や校内研修等での指導助言を、府事業も活用しながら学校支援チームとして行った。算数については改善傾向であるが、国語については全国平均正答率との差が広がった。 改善傾向にある学校の好事例を全ての学校で共有し、授業改善を中心に学力向上の取組みを推進していくとともに、家庭学習の重要性も家庭に発信し啓発していく必要がある。 学力支援コーディネーター：1名 学力向上アドバイザー：2名
	改善 (A)	【令和2年度における取組みなど】
		重点支援小学校では、全国平均正答率との差が改善された学校もあったことから、好事例として取組みを学力向上担当者等で発信・共有するとともに、積極的に支援校以外にも学力支援コーディネーター及び学力向上アドバイザーが指導助言できる機会を設け、他校へ広めることで市域全体の学力向上へつなげていく。また、通信等を発行し、より多くの教職員が指導力等の向上につなげられるよう、取組みを広めていく。 さらに、他の事業で行っている、放課後学習のまなびんぐサポートや平成27年度より実施している算数サポートなどの事業を組み合わせ、市域全体の児童生徒の学力向上を図る。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	⑤国際交流の推進	
事業名	モンゴル国トゥブ県との友好交流事業	
事業概要	【最終予算額：4,511千円】 【決算額：3,096千円】	
	モンゴル国トゥブ県との友好交流の覚書に基づき、中学生が現地を訪問し、遊牧民の生活を学び、日本の遊びを紹介するなど友好の絆を深めている。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：モンゴル国友好交流参加者数							
		KPI：5年間で50人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	10人	10人	20人	30人	39人	49人	累計
		達成率	—	20.0%	40.0%	60.0%	78.0%	98.0%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】			
		<table border="1"> <tr> <td>担当課評価</td> <td>中学生がモンゴルの雄大な自然の中で暮らす遊牧民の子どもとの交流やゲルでの宿泊、民族楽器演奏鑑賞等を通してモンゴルの生活や文化等について理解を深めるとともに、日本の生活や文化等についても発信していくなかで、郷土についても理解を深めることができた。また、現地生徒の自宅でホームステイを行うことにより、言葉が通じなくても気持ちを伝えられることやコミュニケーション力の大切さについても学ぶことができた。帰国後も、訪問で学んだことをいかし、学校生活や生徒会活動等、積極的に活動しようとする意欲につながった。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td></td> </tr> </table>	担当課評価	中学生がモンゴルの雄大な自然の中で暮らす遊牧民の子どもとの交流やゲルでの宿泊、民族楽器演奏鑑賞等を通してモンゴルの生活や文化等について理解を深めるとともに、日本の生活や文化等についても発信していくなかで、郷土についても理解を深めることができた。また、現地生徒の自宅でホームステイを行うことにより、言葉が通じなくても気持ちを伝えられることやコミュニケーション力の大切さについても学ぶことができた。帰国後も、訪問で学んだことをいかし、学校生活や生徒会活動等、積極的に活動しようとする意欲につながった。	B
	担当課評価	中学生がモンゴルの雄大な自然の中で暮らす遊牧民の子どもとの交流やゲルでの宿泊、民族楽器演奏鑑賞等を通してモンゴルの生活や文化等について理解を深めるとともに、日本の生活や文化等についても発信していくなかで、郷土についても理解を深めることができた。また、現地生徒の自宅でホームステイを行うことにより、言葉が通じなくても気持ちを伝えられることやコミュニケーション力の大切さについても学ぶことができた。帰国後も、訪問で学んだことをいかし、学校生活や生徒会活動等、積極的に活動しようとする意欲につながった。			
	B				
改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】				
	担当者との連携・協力を密にし、現地での交流活動の充実をはかる。現地での学びがより深いものになるよう事前学習・事後学習を計画的、継続的に進める。				
委員会意見	【評価等に対する意見】				
	委員会評価				

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	学校教育課
----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	学校教育の充実
具体的施策	⑤国際交流の推進
事業名	青少年海外研修事業
事業概要	【最終予算額：5,806千円】 【決算額：5,410千円】 青少年をオーストラリア・クィーンズランド州サンシャインコーストへ派遣し、英語研修を中心としてホームステイや学校訪問、高齢者施設訪問などの交流を実施する。豊かな国際感覚を身につけた人材育成と友好都市交流を推進する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：青少年海外研修派遣人数							
		KPI：5年間で50人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	10人	10人	20人	30人	40人	50人	累計
		達成率	—	20.0%	40.0%	60.0%	80.0%	100.0%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】	
		担当課評価	高校生から大学生までの青少年10名を17日間派遣した。現地では毎日英語研修を受けるとともに、学校や高齢者が集うコミュニティセンターを訪問し、泉佐野市や日本文化を紹介した。また、現地のお店を訪問したり、公園等で居られる方にインタビューをしたりしながら英語を使ってコミュニケーションをとる活動も行った。そして、ホームステイでは、異なる文化の中で生活することにより多様な価値観を学んだ。
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】	
		英語の語学力向上に向けてのレッスンでの内容を充実させることはもとより、事前学習も充実させることで、オーストラリアの生活や文化等について興味を持ち、積極的に学ぶ意欲を高めていく。そして、帰国後も、積極的に国際交流につながる活動に取り組むことができる人材の育成をめざします。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	学校教育課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	学校教育の充実	
具体的施策	⑤国際交流の推進	
事業名	文化交流事業（国際交流推進事業）	
事業概要	【最終予算額：3,052千円】 【決算額：2,851千円】	
	子どもたちが自分の郷土の良さを再発見し、海外への見識を広げる機会とする小中学生の交流事業を実施する。平成26年度は絵画交流事業（派遣・受入）を実施したが、平成27年度からは英語教育推進校児童派遣事業を実施した。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：英語教育推進校児童生徒派遣人数							
		KPI：5年間で10人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	2人	3人	6人	9人	14人	24人	累計
		達成率	—	30.0%	60.0%	90.0%	140.0%	240.0%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】	
		担当課評価	市内中学生10名をオーストラリア・サンシャインコーストへ派遣した。英語レッスンや現地小学校との交流、ホームステイ体験を実施し、異なる言語・文化の中で生活することにより、日本と外国との違いに気づき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする力を養った。
	A		
改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】		
	市内中学生10名をオーストラリアサンシャインコーストへ派遣し、日本とは異なる言語・文化の中での生活を体験することを通して、外国の国々に興味を持ち、その国の言語や文化などを積極的に学ぶ子どもの育成をめざす。		
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	学校教育課
----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	学校教育の充実
具体的施策	⑤国際交流の推進
事業名	マラソン交流事業（国際交流推進事業）
事業概要	【最終予算額：1,311千円】
	【決算額：1,309千円】 生涯にわたってスポーツを楽しむ人が増加する中、マラソン大会への参加を中心とした社会人の国際交流を実施する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：マラソン大会派遣人数							
		KPI：5年間で10人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	2人	2人	5人	8人	11人	14人	累計
		達成率	—	20.0%	50.0%	80.0%	110.0%	140.0%	
		②目標事項：マラソン大会招聘人数							
		KPI：5年間で15人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	3人	3人	4人	5人	6人	7人	累計
		達成率	—	20.0%	26.7%	33.3%	40.0%	46.7%	
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】							
		担当課評価	【派遣】サンシャインコーストマラソン大会へ市民ランナー2名（男女各1名）及び泉佐野市職員ランナー（男子）1名を派遣した。 【招聘】KIX泉州国際マラソン大会に参加する海外友好都市ランナーをモンゴル国トゥブ県から1名を招聘し、大会出場と併せて市長表敬訪問、市内観光などの実施により友好都市交流を推進した。						
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】							
		【派遣】サンシャインコーストマラソン大会については、国際交流事業として引き続き市民ランナー2名及び泉佐野市職員ランナー1名を派遣していく。 【招聘】引き続き海外招待選手を招聘できるよう、KIX泉州国際マラソン大会主催者に要望していく。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	人権推進課
----------	-----	-------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	男女共同参画社会づくりの推進
具体的施策	⑥仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の啓発
事業名	自己啓発事業等の実施（市民対象）
事業概要	【最終予算額：1,825千円】
	【決算額：1,683千円】 男女共同参画の視点に基づく各種講座や自己啓発事業を開催するとともに、相談体制の充実を図る。男女共同参画社会に向けた、各種講座、グループ支援、相談業務等実施。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：自己啓発事業実施回数（市民）							
		KPI：5年間で20回							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	7回	11回	15回	20回	26回	累計
		達成率	—	35.0%	55.0%	75.0%	100.0%	130.0%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】	
		担当課評価	豊かで生き生きとした地域づくりをめざし、ワーク・ライフ・バランスを啓発し、幅広い世代が参加できるよう様々なジャンルでの事業を実施できた。限られた財源のなか、他機関との共催等の工夫を凝らした。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】	
		引き続き、ワーク・ライフ・バランスが啓発できるよう、男女がともに参加できる事業を展開していく。特に、子育て世代を支援できる講座やシニア世代の男性層のセカンドライフの充実を図る事業の企画を図っていく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	まちの活性課
基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向	男女共同参画社会づくりの推進	
具体的施策	⑥仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の啓発	
事業名	セミナーや啓発事業等の実施（企業・事業所対象）	
事業概要	【最終予算額： ー 】 【決算額： ー 】	
	経営者、管理者の意識改革を目的としたセミナーや研修を開催する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：セミナー等の実施回数（企業）							
		KPI：5年間で50回							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	ー	0	4	10	14	19	累計
		達成率	ー	0.0%	8.0%	20.0%	28.0%	38.0%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	ー						
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	ー								
令和元年度	評価（C）	【元年度評価】							
		担当課評価	泉佐野・熊取・田尻事業所人権連絡会を通じ、経営者及び管理者向けに男女共同参画社会づくりの推進に資する研修・講演会の案内、参加要請を積極的に行った。 また、性別をはじめとした本人の能力と関係のない事柄で就職における採否を決定することの無いよう、同連絡会会員宛てに啓発パンフレット等を積極的に送付した。						
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】							
		引き続き関係課や関係団体と連携しながら、取り組みの充実を図り、ワークライフバランスの啓発に努めていく。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	子育て支援課
----------	-----	--------

基本目標	③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本的方向	結婚・妊娠・出産・子育て支援の充実
具体的施策	⑦出会いの支援
事業名	婚活イベント等の共催・後援など（出会いの機会創出事業）
事業概要	【最終予算額：3,186千円】
	【決算額：2,908千円】 異性との交際・結婚を望みながらも、その相手に出会えていない独身男女に対し、出会いの場を提供するための体験型婚活イベント等を開催。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：婚活イベントとの共催等件数							
		KPI：5年間で10件							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	—	4件	7件	10件	13件	累計
		達成率	—	—	40.0%	70.0%	100.0%	130.0%	
		②目標事項：セミナー・啓発事業等の実施回数							
		KPI：5年間で10回							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	—	4回	7回	10回	13回	累計
		達成率	—	—	40.0%	70.0%	100.0%	130.0%	
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		<p>担当課評価</p> <p>A</p> <p>ワークライフバランスを意識したライフデザイン形成のためのセミナーを実施すると共に、出会いの場を提供した。また、令和元年度においては、パーティーやお見合い以外に料理を作ったり、スポーツをしたりと、参加者が共同で何かをするといった趣向を盛り込んだ内容を試み、カップル成立への効果的な実施内容となった。</p> <p>〈令和元年度実績〉申込者数：137名、参加者数：132名、カップル数：24組 〈平成30年度実績〉申込者数：218名、参加者数：200名、カップル数：19組 〈平成29年度実績〉申込者数：189名、参加者数：178名、カップル数：46組 〈平成28年度実績〉申込者数：67名、参加者数：60名、カップル数：21組</p>
	<p>【令和2年度における取り組みなど】</p> <p>婚活ニーズは、シンプルに出会いたいというものが多数であり、交流中心の企画が効果的であると考え、気軽に参加できるイベントを実施する。出会っても自己表現が困難であったり、交際へ上手く繋げられないといった様子が見受けられるため、自己表現等のスキルアップセミナーを引き続き実施するとともに、イベント内容や対象年齢を工夫しながら実施したいと考える。また、周知募集については、ホームページやSNS等の電子媒体を積極的に活用するなど、効率的・効果的に行う。</p>	
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	道路公園課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	①交通ネットワークの整備	
事業名	コミュニティバス無料化事業	
事業概要	【最終予算額： 25,219千円】 【決算額： 25,219千円】	
	地域の生活拠点を運行するコミュニティバスを無料化することにより、交通弱者の社会参加等を促進するとともに、通勤・通学等の経費減により転入促進を図る。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：コミュニティバス利用者数							
		KPI：5年後に111,000人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	68,500人	99,747人	151,978人	154,490人	160,494人	180,147人	
		達成率	—	89.9%	136.9%	139.2%	144.6%	162.3%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】	
		担当課評価	令和元年度の利用者数が180,147人で目標数値及び昨年度実績を上回った。
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】	
		利用者の大半である高齢者が安心して通院や買い物に利用できるように、新型コロナウイルス感染防止対策を講じているが、収束期以降も運行業者等と協議し、引き続き、国や府の措置に準拠した適切な感染防止対策を講じていきたい。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	政策推進課
----------	-----	-------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	都市基盤の再構築
具体的施策	②時代に合った行政サービスの実現
事業名	近隣市町との事務連携、権限移譲
事業概要	【最終予算額： ー 】 【決算額： ー 】 泉佐野市・泉南市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町における福祉分野を広域連携化し、「広域福祉課」を設置。社会福祉法人の認可事務等10事務を共同で処理している。これまで取り組んできた消防やまちづくり関係業務など、地域の特性に応じた近隣自治体の広域連携をさらに強化するとともに、民間活力の導入、ICTの推進、権限移譲の推進など、行政サービスの向上を図るものである。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：広域連携事務数							
		KPI：5年後に55事務							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	40事務	40事務	56事務	56事務	56事務	56事務	累計
		達成率	ー	72.7%	101.8%	101.8%	101.8%	101.8%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	ー						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	ー								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 B 令和元年度は3市3町等の広域連携による事務処理受託はなかった。 ※KPIは目標数値に達するが、今年度は広域連携事務がなかったため、昨年度と同じ評価でBとした。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 権限移譲以外の市町独自事務について、引き続き共同化できるものは実施していく。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	総務課						
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する							
基本的方向	都市基盤の再構築							
具体的施策	②時代に合った行政サービスの実現							
事業名	公共施設等の耐震化、改修事業							
事業概要	【最終予算額： － 】 【決算額： － 】							
	公共施設等総合管理計画を策定し、長期的視点に立った更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行うことにより、公共施設等の最適な配置を実現する。 庁舎耐震改修工事を27・28年度で施行完了 公共施設等総合管理計画を27・28年度で業務委託して策定完了							
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	－					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	－					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	－							
令和元年度	評価（C）	【元年度評価】						
		担当課評価 B	庁舎耐震改修工事を27・28年度で施行完了した。 公共施設等総合管理計画の策定については、27・28年度で完了した。 公共施設等総合管理計画の再配置計画に基づき、保健センター（H28年度末）・社会福祉センター（H29年度）の移転、南部市民交流センターと青少年センター等の複合・集約及び北部市民交流センターに三中校区公民館の複合化、青少年センター跡地の売却が完了した。					
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】						
		策定した公共施設等総合管理計画の維持・更新作業を行うことで、今後の公共施設等の最適な配置に努める。						
委員会意見	【評価等に対する意見】							
	委員会評価							

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	自治振興課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保	
事業名	草の根防災訓練（災害対策事業）	
事業概要	【最終予算額：34,549千円】	
	【決算額：30,348千円】 地域の団体が、市の提示する訓練メニューから訓練内容を選択して実施する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：自主防災組織率							
		KPI：5年後に97%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	77.41%	81.6%	90.4%	93.8%	95.5%	95.4%	
		達成率	—	84.1%	93.2%	96.7%	98.5%	98.4%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								
令和元年度	評価（C）	【元年度評価】							
		担当課評価	大防災訓練を行ったことにより、さらに草の根防災訓練が各自主防災組織で年間行事として定着してきた。令和元年度末現在で、自主防災組織は82町会中77町会で結成。（平成30年度末現在は、82町会中75町会であった。）						
	B								
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】							
市民防災の日に大防災訓練を実施し防災意識の高揚を促す。また、大防災訓練に参加した自主防災組織への補助金を増額し防災訓練の機運を高め、活動の促進を図る。									
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	自治振興課
----------	-----	-------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保
事業名	女性消防団員の採用
事業概要	【最終予算額：2,028千円】 【決算額：1,249千円】 市民の安全・安心を確保するため、平常時は防火・防災知識の普及啓発や応急救護の指導、災害発生時は、救護活動や避難所運営の支援等の後方活動を行い、女性特有のニーズや心づかいを地域の防災に活かす。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：消防団員数						
		KPI：女性消防団員の条例定数20人（男性を含めて150人）を維持する。						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	147人	147人	148人	148人	158人	165人
		達成率	—	98.0%	98.6%	98.6%	105.3%	110.0%
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】	
		担当課評価	平成30年4月に市役所分団が発足し、条例定数が170人となったため、達成率は110%となっている。平成31年4月に2名の新団員を確保し、初めて条例定数の20人となった。昨年度末に2名が退団し、今年度は1名の新団員にとどまっているため令和2年度中に募集を行う。
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】	
		活動内容及び広報の充実強化を図る。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	自治振興課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保	
事業名	地域の絆づくり登録制度	
事業概要	【最終予算額：9,156千円】 【決算額：8,789千円】 災害時の避難に不安がある方（避難行動要支援者）に、あらかじめ市に登録していただき、地域の支援団体とその情報を共有し、平常時の見守りや災害が発生したときの避難支援活動、安否確認に役立てる。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	担当課評価	【元年度評価】 要支援者名簿を作成し、地域の支援団体77組織中、41組織と協定を締結し名簿の提供を行った。 全77自主防災組織中、H27締結団体数16団体、H28締結団体数9団体、H29締結団体数9団体、H30締結団体数2団体、R元締結団体数5団体。 同意登録者数H28：2347人、H29：2464人、H30：2762人、R元：2695人。
		B	
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 あらゆる機会を活用して制度説明を行うなど広く理解を求め、登録者数及び地域の支援団体の増加を図る。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	自治振興課
----------	-----	-------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	③市民が地域防災の担い手となる環境の確保
事業名	泉佐野市少年消防クラブ員の東北被災地訪問（泉佐野市の未来を創る教育事業）
事業概要	【最終予算額：1,918千円】 【決算額：145千円】
	泉佐野市教育委員会の「未来を紡ぐ子どもの絆」プロジェクトの一環として泉佐野市少年消防クラブ員の小学生を東北被災地へ派遣し、現地児童との交流や復興状況の聞き取りなどの防災学習を実施する。 また、平成29年度より泉佐野市消防団員5名を現地に派遣し、身をもって災害の大きさや悲惨さを体感することにより、今後の消防団活動に生かし本市の災害対策推進を図る。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—						
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】		
		担当課評価	泉佐野市少年消防クラブ員の市内小学校13名を東広島市へ派遣予定であったが、前日の台風10号の影響により中止となったため、来年度、東広島市へ派遣を行う。	
	B			
改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】			
	東広島市を訪問することにより、両市の児童や消防団員が交流を図り震災時の状況及び復興状況を見聞するだけでなく、被害の現実や人々の抱える課題について理解することが出来るため、今後の防災教育・防災体制の充実に役立てたい。			
委員会意見	委員会評価			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	健康推進課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	④食育の推進	
事業名	家庭や学校などにおける食育推進	
事業概要	【最終予算額： - 】 【決算額： - 】 学校などでの栄養バランスのとれた食事の提供により、健康の増進、体力向上を図るとともに、家庭における朝食の重要性など、食に関する正しい知識の啓発を行う。	

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：食育の認知度							
		KPI：5年後に80%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
		数値	71.5%					68.6%	令和元年度にアンケート実施予定
		達成率	-					85.8%	
		②目標事項：朝食を毎日食べる人の割合（小中学生）							
		KPI：5年後に95%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	87.7%					82.5%	令和元年度にアンケート実施予定
		達成率	-					86.8%	
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	-								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】	C	担当課評価	平成26年3月に策定された泉佐野市食育推進計画から5か年が経過し、アンケート調査を実施し、令和2年3月に「第2次泉佐野市食育推進計画」が策定された。継続的に、庁内推進委員会を設置し、家庭や学校などにおける食育推進の取り組みとしては、「共食」の重要性や朝食を食べることによる効果を学校など通して家庭への啓発、また、電子母子手帳「さのっ子ナビ」を活用した食育推進の啓発、ファミリー親子料理教室や子ども園へ出向いての講座などを実施した。
		改善 (A)		【令和2年度における取り組みなど】 「第2次泉佐野市食育推進計画」が策定されたことから、概要版を活用し周知するとともに、庁内推進委員会を利用し連携をより強化していく。	
	委員会意見	【評価等に対する意見】			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	健康推進課
----------	-----	-------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	④食育の推進
事業名	地域における食育推進
事業概要	【最終予算額： － 】 【決算額： － 】 医師会など医療関係団体による啓蒙活動や、食に関連するボランティア団体との協働による食生活指導などにより、生活習慣病の発症や重症化の予防を図る。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：食育の認知度							
		KPI：5年後に80%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	71.5%					68.6%	令和元年度にアンケート実施予定
		達成率	－					85.8%	
		②目標事項：朝食を毎日食べる人の割合（小中学生）							
		KPI：5年後に95%							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	87.7%					82.5%	令和元年度にアンケート実施予定
		達成率	－					86.8%	
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	－								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】 担当課評価 C 平成26年3月に策定された泉佐野市食育推進計画に基づき、関係団体と連携を密にとり、事業を推進している。地域における食育推進の取り組みとしては、基本健診時に若年者への啓発や生活習慣病予防のための試食や展示、イベント等における啓発などを実施した。また、特定健診保健指導及び健康教室や相談でアドバイスを行った。令和元年度にアンケートを実施し、令和2年3月に「第2次泉佐野市食育推進計画」が策定された。
	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 「第2次泉佐野市食育推進計画」が策定されたことから、概要版を活用した食育推進事業を実施するとともに、より関係団体との連携を強化し、ネットワークを広げることで、市民の視点を取り入れた事業を実施していく。
	委員会意見	【評価等に対する意見】 委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	農林水産課
----------	-----	-------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	④食育の推進
事業名	生産者における食育推進
事業概要	【最終予算額：－】 【決算額：－】 農業体験などにより、食材についての知識を得ると共に、自然の恵みや生産者への感謝の心を育む。また、地元の給食への提供などにより地産地消を推進する。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	－						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	－						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	－								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】 担当課評価 B 若手農業者グループによるこども園園児に対する芋ほり体験（H30年度183名、R元年度154名）や、若手漁業者による小学生に対する地曳網漁業体験（H30年度277名、R元年度184名）などの体験機会の提供により、地元食材に対する知識の向上や自然の大切さについての理解に努めた。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 引続き、各種体験を通じて地元食材に対する知識の向上や自然の大切さについての理解に努める。
	委員会意見	【評価等に対する意見】
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	環境衛生課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	都市基盤の再構築	
具体的施策	⑤エネルギーの地産地消	
事業名	泉佐野電力の運営（泉佐野電力からの電力需給調整）	
事業概要	【最終予算額： — 】 【決算額： — 】	
	一般財団法人泉佐野電力を設立し、その後、泉佐野電力から市への電力需給を促進、調整する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：泉佐野電力電気供給量（デマンド値）							
		KPI：5年後に15,000kW/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	5,000kW	4,859kW	6,895kW	10,461kW	9,413kW	9,507kW	
		達成率	—	32.4%	46.0%	69.7%	62.8%	63.4%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	担当課評価	令和元年度は、低圧で298施設、高圧で42施設の計340施設に電気を供給。デマンド値（最大需要電力）は、想定した現状値（9,507kW）に近い実績値となった。
		C	
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 令和2年度については、令和2年5月から新たに日根野公民館の供給が開始される。関空アイスアリーナ、ホテル、温浴施設は令和元年秋季から供給を行っているが、事業が遅れている駐車場、バスターミナル等は順次供給を行う予定。引き続き高圧契約を含むデマンド値（最大需要電力）アップを目指す。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	健康推進課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑥高齢者の健康づくり	
事業名	健康マイレージ事業	
事業概要	【最終予算額：967千円】	
	【決算額：850千円】 健康教室への参加や特定健診・がん検診等の受診など、健康づくりへの取組みをポイント化して地域ポイントの付与を行い、健康づくりへの積極的な参加促進を図る。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：特定健診受診率							
		KPI：5年後に60%/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	31.7%	32.9%	33.3%	33.7%	32.6%	32.7%	
		達成率	—	54.8%	55.5%	56.1%	54.3%	54.5%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
③目標事項：									
KPI：									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								
令和元年度	評価（C）	【元年度評価】							
		担当課評価	参加者の増加に向け、制度の周知や参加しやすい工夫等に努める。平成30年度から記念品との交換から、地域ポイントの付与に変更することにより、地域振興も含めた健康づくり事業の展開となり、マイレージ目標ポイント達成者は、毎年増加し、令和元年度は352人となる。過去の達成者数は、平成30年度は252人、平成29年度は196人、平成28年度161人、平成27年度157人。						
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 参加者増加のために健康に関心を持ってもらえるような工夫や広報等に努めるとともに、幼稚園、こども園、保育園、PTA等への周知方法をより強化する方向に変更し、内容を充実させ、魅力ある健康づくり事業として市民に拡げるように啓発に努める。							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	健康推進課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑥高齢者の健康づくり	
事業名	健康増進事業	
事業概要	【最終予算額：80,433千円】 【決算額：71,003千円】 がん検診、特定健康診査等の受診率をあげることにより、地域住民の疾病の早期発見・予防を図り、健康づくりに対しての意識を高める取り組みを行う。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		②目標事項：						
		KPI：						
		現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値						
		達成率	—					
		③目標事項：						
		KPI：						
現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値								
達成率	—							
評価（C）	担当課 評価	【元年度評価】						
		B 集団検診の電話予約での予約枠に柔軟性を持たせるなど予約方法を工夫し、受診率の向上に努めた。令和元年度受診率は、肺がん検診3.8%、子宮がん検診18.7%、乳がん検診13.9%、胃がん検診5.6%、大腸がん検診5.6%。平成30年度受診率は、肺がん検診3.2%、子宮がん検診18.6%、乳がん検診13.6%、胃がん検診4.6%、大腸がん検診5.1%であった。						
令和元年度 改善（A）	委員会 意見	【令和2年度における取り組みなど】						
		昨年度同様に、受診相談に応じるコールセンターの設置・インターネット予約など利便性を継続し、個別検診については医師会と連携を図り周知や精度管理に努め、受診率の向上及び充実できるようにした。また過去の実績を曜日・時間帯・場所・検診種別・限定日等、様々な角度から受診率など分析し、ニーズを把握したうえで、令和2年度は、午後からの検診を必要最小限にし、ニーズの高い午前の検診を増やすなどの工夫を行う。また、従前の女性限定日に加え、乳幼児健診に来る母に乳幼児健診と同時にがん検診も受けてもらえるように、「3歳半健診」との併設日も新たに導入し検診受診率向上に努める。						
令和元年度 改善（A）	委員会 意見	【評価等に対する意見】						
		委員会 評価						

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分		担当課	地域共生推進課・健康推進課						
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する								
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり								
具体的施策	⑥高齢者の健康づくり								
事業名	地域健康教室事業（福祉関連出張講座の開催）								
事業概要	【最終予算額45,877千円】			【決算額：39,194千円】					
	<p>・高齢者が自ら介護予防を意識できるよう出張講座（介護予防、認知症予防、健康づくり）を開催し、要介護状態にならない生活の支援を図る。また、虐待、成年後見制度、消費者被害防止等の出張講座については、現状報告や制度の趣旨説明等、住民への周知及び理解を図る。</p> <p>・介護予防プログラムを実践し、介護予防・認知症予防・健康づくりに取り組むとともに、地域住民の生きがいの場を広げ、コミュニティの創出と活性化を図る音楽介護予防教室を開催する。</p>								
計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：出張講座実施回数							
		KPI：5年後に75回/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	69回	105回	116回	77回	61回	58回	
		達成率		140.0%	154.7%	102.6%	81.3%	77.3%	
		②目標事項：出張講座受講者数							
		KPI：5年後に3,100人/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	2,914人	2,367人	3,925人	1,781人	1,355人	1,537人	
		達成率		76.3%	126.6%	57.4%	43.7%	49.6%	
		③目標事項：音楽介護予防教室実施回数							
		KPI：4年後に600回/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	—	392回	575回	647回	559回	
		達成率	—	—	65.3%	95.8%	107.8%	93.2%	
		④目標事項：音楽介護予防教室参加者数							
KPI：4年後に12,000人/年									
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値	—	—	8,059人	9,873人	11,746人	10,412人			
達成率	—	—	67.2%	82.2%	97.9%	86.8%			
令和元年度	評価（C）	担当課評価	<p>・出張講座の数値については、地域共生推進課・地域包括支援センター（社会福祉協議会）にて実施している合計数である。なお、保健センターによる実施については、平成28年度で一旦終了している。</p> <p>・音楽介護予防教室については、平成28年度新規事業であるが、令和元年度は1ヶ所増えて現在56ヶ所で開催しており、利用者は着実に増加している。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、定期開催が中止となったことから、実施回数及び参加者数が減少している。</p>						
		B							
	改善（A）	<p>【令和2年度における取り組みなど】</p> <p>チラシや広報誌以外の周知方法も活用し、利用者の増加に努めていく。</p>							
委員会意見	【評価等に対する意見】								
	委員会評価								

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	自治振興課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑦地域づくり	
事業名	防犯推進事業	
事業概要	【最終予算額：130千円】 【決算額：80千円】	
	児童の登下校時の安全見守り活動を展開している各小学校区の団体のうち、地域安全センター未設置の団体に対し、設置加速化事業補助金を活用し、市内全小学校区（13校区）に地域安全センターが設立された。引き続き、運営費の一部を補助し、さらなる活性化を図り、安心・安全なまちづくりを進める。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【令和元年度評価】	
		担当課評価	地域安全センター13箇所中、8箇所の運営費の一部の補助を行った。
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】	
		引き続き、地域安全センターの運営費の一部を補助し、さらなる活性化を図り、安心・安全なまちづくりを進めます。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	自治振興課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑦地域づくり	
事業名	町会連合会の加入促進活動事業への補助金	
事業概要	【最終予算額： 19,701千円】 【決算額： 11,272千円】 地域自治の振興並びに住民の相互扶助等を図るため、泉佐野市町会連合会に対して補助金を交付し、同町会連合会は、加入する町会・自治会加入者に対して活動促進袋を配付する。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：町会加入率							
		KPI：5年後に70%以上							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	63.2%	62.6%	61.4%	60.4%	59.7%	58.7%	
		達成率	—	89.4%	87.7%	86.3%	85.3%	83.9%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率	—						
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 C
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 本事業について、令和2年度も活動促進袋作成配付事業の実施主体である泉佐野市町会連合会が町会・自治会加入促進事業補助金により事業を継続します。さらには、新規加入世帯に対する「さのぼ」ポイント付与事業を継続するとともに、市職員が町会・自治会と連携して未加入世帯への加入勧奨を進めていきます。
委員会意見	【評価等に対する意見】	
	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	地域共生推進課
----------	-----	---------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり
具体的施策	⑦地域づくり
事業名	三世代同居等支援事業
事業概要	【最終予算額：3,000千円】 【決算額：1,700千円】 泉佐野市内における三世代同居等を促進することで、こどもを安心して産み育てられ、また、高齢者等が安心して暮らせる健康で幸せな住環境を創るために、高齢者世帯と同居又は近居することとされたこども世帯に対して、予算の範囲内でその費用の一部を助成する。

計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標事項・進捗状況	①目標事項：三世代同居等支援件数							
		KPI：5年後に30件/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	—	7件	12件	11件	13件	17件	
		達成率	—	23.3%	40.0%	36.6%	43.3%	56.7%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率							
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価 (C)	【元年度評価】
		担当課評価 C 泉佐野市三世代同居等支援事業は平成26年度から行っているが、事業当初は、助成対象の条件が厳しかったため、該当者がなく、平成26年度は実績が「0」であった。平成27年度より一部要綱を改正し、条件を緩和して事業を行い、平成27年度は申請者が7名で、平成28年度は申請者12名、29年度は11名で、徐々にであるが事業も周知されることとなった。今後も、高齢者等が安心して暮らせる健康で幸せな住環境を創るために、高齢者世帯と同居又は近居の推進を行う。

令和元年度	改善 (A)	【令和2年度における取り組みなど】 昨年同様、市の広報誌でのお知らせや、市外転入者や市内転居者に対し、市民課での広報チラシの配付などを行い、広く市民に周知し、申請に繋がるよう努力する。
		【評価等に対する意見】

令和元年度	委員会意見	委員会評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	地域共生推進課
基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	
基本的方向	健康で安心して暮らせるまちづくり	
具体的施策	⑦地域づくり	
事業名	認知症サポーター養成講座（家族介護継続支援事業）	
事業概要	【最終予算額：77千円】	
	【決算額：70千円】 認知症になった高齢者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域でのた だしい理解を広げる。	

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：認知症サポーター数							
		KPI：5年後に5500人							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	4,144人	4,324人	4,993人	5,689人	6,010人	6,913人	
		達成率	—	78.6%	90.8%	103.4%	109.3%	125.7%	
		②目標事項：							
		KPI：							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値							
		達成率							
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	【元年度評価】
		担当課評価 A
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】 泉佐野市内の認知症キャラバンメイトと協力し、認知症の理解を地域住民に広める活動を行 い、今後も認知症サポーターを養成していく
		【評価等に対する意見】
委員会意見	委員会評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

令和 元 年度分	担当課	地域共生推進課
----------	-----	---------

基本目標	④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	健康で安心して暮せるまちづくり
具体的施策	⑦地域づくり
事業名	地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）（再掲）
事業概要	【最終予算額：11,094千円】 【決算額：11,094千円】 地区福祉委員会が主催する高齢者や障害者等への見守り訪問活動【個別支援活動】や孤立防止や地域での仲間づくり、介護予防等の目的で開催する交流会や高齢者サロン活動【グループ支援活動】の支援を行う。

計画（P） ↓ 実施（D）	目標事項・進捗状況	①目標事項：個別支援活動実施世帯数							
		KPI：5年後に2,100世帯/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	1,925世帯	1,980世帯	1,992世帯	2,117世帯	2,126世帯	2,116世帯	
		達成率	—	94.2%	94.9%	100.8%	101.2%	100.8%	
		②目標事項：グループ支援活動回数							
		KPI：5年後に1,890回/年							
			現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
		数値	1,775回/年	1,935回/年	2,130回/年	2,282回/年	2,421回/年	2,282回/年	
		達成率	—	102.4%	112.7%	120.7%	128.1%	120.7%	
		③目標事項：							
		KPI：							
	現状値	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	備考		
数値									
達成率	—								

令和元年度	評価（C）	担当課評価	高齢化の進行や障害者の地域移行が進む中で、地区福祉委員会の見守り活動は、地域で支援を必要とする人の孤立死・引きこもりなどの防止や福祉課題の早期発見、課題の困難化の予防などに非常に効果を上げているといえる。個別支援実施世帯数は令和元年度も目標値を上回っており、グループ支援活動回数も目標値を上回る数値で推移しており、要支援者にとっても、きめ細かで充実した支援が行われた。特殊詐欺被害が増加するなかで、被害防止の啓発機会としても活用されるなど、様々な地域課題の解決に有用な活動となっている。
		A	
	改善（A）	【令和2年度における取り組みなど】	
		今後、地域で生活する高齢者や障害者は増加していくことが見込まれることから、現状での要支援者への支援活動をより充実させていくとともに、新たな要支援者の発見の仕組みを強化していく必要がある。また、併せて、これらの活動を継続的に実施していくためには、活動を支える地域でのボランティアなどの担い手の育成についても、推進していくことが求められる。市としては、このようなことも踏まえ、引き続き地区福祉委員会の活動の支援を行っていく。	
委員会意見	【評価等に対する意見】		
	委員会評価		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。